

研究主題

健康の保持増進と豊かなスポーツライフを育む保健体育学習の創造 (第2年次)

香中研保健体育教育研究部会

I 主題設定の理由

中央教育審議会答申(平成28年12月)においては、保健体育科のこれまでの取組により、運動やスポーツが好きな生徒の割合が高まったこと、体力の低下傾向に歯止めが掛かったこと、「する、みる、支える」のスポーツとの多様な関わりの必要性や公正、責任、健康・安全等、態度の内容が身に付いていること、子どもたちの健康の大切さへの認識や健康・安全に関する基礎的な内容が身に付いていることなど、一定の成果が見られる。一方で、習得した知識や技能を活用して課題解決することや、学習したことを相手に分かりやすく伝えること等に課題があること、運動する子どもとそうでない子どもの二極化傾向が見られること、健康課題を発見し、主体的に課題解決に取り組む学習が不十分であること等が指摘された。

本県においては、平成30年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の質問紙調査では、「運動やスポーツをすることは好きですか」という質問に対して、男子は約89.2%、女子は約80.1%の生徒が肯定的な回答を示している(全国は男子約88.8%、女子約78.9%)。また、「保健体育の授業は楽しいか」という質問に対して、男子は約94.6%、女子は約90.9%の生徒が肯定的な回答を示している(全国は男子約94.6%、女子約90.7%)。いずれも全国平均と変わらず高い数値を示している。これは、本県保健体育科のこれまでの授業づくり及び学習指導の成果といえるのではないだろうか。

しかし、学習指導要領改訂を契機に、今一度、これからの保健体育学習はどうあるべきかを問い直す必要があるのではないだろうか。私たちは、体力や技能の程度、年齢や性別及び障がいの有無等にかかわらず、すべての生徒が生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することができる保健体育学習をめざす。以上のことを踏まえ、本研究主題を「健康の保持増進と豊かなスポーツライフを育む保健体育学習の創造」と設定した。

II 研究の概要 - 香中研保健体育部会の基本的な考え方 -

すべての生徒が学ぶ意義を実感できる保健体育学習へ

これからの社会がどのように変化しようとも、生徒たちが生涯にわたって健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現することができるようになるためには、すべての生徒が経験する保健体育学習でどのような学びがあり、どのような実感を得られ、資質・能力が育まれたかが大切であると考えます。

本研究で私たちが大切にしたいことは、目の前の「すべての生徒」に、「やった!」「できた!」「分かった!」「なるほど!」などの充実感や達成感、成就感等を味わわせることである。「すべての生徒が保健体育を学ぶ意義を実感」できるような授業を行うことは、当たり前なことだと言われがちだが、日々の実践を振り返ってみるとどうだろうか。体育分野で例をあげると、入学当初、運動が苦手、体育が嫌いと感じていた生徒が、卒業するときどのような生徒になっているだろうか。普段どんなに運動をしない生徒であっても、学校での体育の授業では体を動かす機会が保障されている。この時間に運動やスポーツの魅力を伝えていくこと、そして運動嫌いにしないことが重要なことではないだろうか。保健分野においても、同様である。

生徒たちが、体育や保健の見方・考え方を働かせ、自他の健康課題や運動課題を主体的に発見し、解決していく学習過程で得られる実感こそが、生涯にわたって運動に親しむ多様な関わりや健康への課題に対する実践力の源泉になると考える。学習指導要領改訂を契機に、今一度日々の授業実践を見直し、香川県内のすべての中学生が本教科を学ぶ意義を実感できるような保健体育学習の在り方を追求する。

【香中研保健体育部会がめざす生徒の姿】

自他の運動や健康についての課題を主体的に発見し、解決に向けて取り組もうとするとともに、運動や健康の価値を見出すことができる生徒

香中研保健体育部会では、研究主題「健康の保持増進と豊かなスポーツライフを実現する保健体育学習の創造」に迫るために、「すべての生徒が学ぶ意義を実感できる保健体育学習」を大きな柱として、めざす生徒の姿を求めながら、7つの研究支部(8ブロック)がこれまでの研究の成果と課題を生かしつつ、それぞれのアプローチで研究を進めていく。

(文責 教科研究部長 増田 一仁)